



ちよつと想像つかない。時速200キロでコーナーに突入する瞬間の心境なんて。だけど、ぎりぎりへの挑戦が、気持ち良いまでの深さと多少のことでは動じない根性を育てることだけは、分かる。今の天本さん(32)を見ていれば。

サーキットを駆け、「カート女王」の異名をとった。きつかけはひよんなこと。高校卒業後、インテリアコーディネーターを目指し、働きながら夜間学校に通っていた。遊園地で賞品ほしさに参加したゴーカートレース。男性に交じって見事優勝し、レーサーとしてスカウトされる。

「華やかなようで、どろどろした世界。タイヤをパンクさせられたり、『スポンサーの愛人じゃないか』なんて陰口言われたり」言わせない、それには勝つだけ。デビュー翌年の90

「カートの女王」ITで復活

年、「中九州シリーズ」のチャンピオンに。同年の「ジャパンカートグランプリ」では女性2位。その後、フォーミュラカーレースに移り、国内外を転戦する。そこに、「あの事故」だった。

94年の晩秋。深夜、見通しの悪い交差点でタクシーと衝突。骨盤を損傷し、右足に後遺症が残った。「復帰しても、いい成績をとれないは意味ない」。人とも会わず、内にこもった。そんな、なえた心につつとしみ込んだのは母の一言。「人生は1回しかないけれど、生きる道って何通りもあるんじゃないの」。肩の力が抜けた。「そうか。今まではあまりにも車だけの生活だったんだなあ」

入退院を繰り返していたころ、同じ病室にパソコン持参の患者が入院した。もともと「マシン」好き。興味津々でいじるうちに詳しくなつた。今春、生まれ育った福岡県に、ウエブデザイン会社とパソコンスクールを設立した。レーサーからITビジネスの起業家へ。一見、華麗

なる転身。「でも本当に切れたのは、3年前に子供を産んでから」。それまでは、どこかにあつた、レースに復帰できないかという気持ち。でも、「娘にどんな姿を見せたいか」と自問するうち、うつうつとした思いは吹き飛んだ。

視野も広がった。「主婦はスクールに行きたくても、子供を預けるところもないと知った」。託児つきパソコンスクールは手始めだ。女性や中高年の起業や再就職を応援したい。「レースみたいにスタートしやすくゴール、じゃない。自分で3年後、5年後の目標を立てていかなければ」。自らのつぶやきで背中を押す。待つだけじゃ始まらない。なりたい自分に変えなくちゃ、と。

(平塚 史歩)

あまもと ゆいこ



インターネットビジネス 天本 結子さん

写真・鳥巢 瑞乃